

-  農業ビジネスを始めたい
-  農業を始めたい・見直したい
-  農村・農村的生活をしてみたい
-  地域の活性・交流を図りたい

書籍のご案内

これからの

対談で語る 農業・農村・地域活性

農村と都市の
共生を目指す



農業・農村・地域づくり
のフロントランナー

元札幌テレビ
アナウンサー
・キャスター

H26 日本農業賞
「食の架け橋の部」
大賞受賞



Case1 農村生活は毎日が楽しくて仕方がない

編著者 **林美香子**氏
慶應義塾大学大学院特任教授
農都共生研究会代表

対談者 **曾根原久司**氏
NPO 法人
えがおつなげて 代表理事

Case2 地域と一緒にあって農業を受け継いでいく幸せ
白石農園

白石好孝氏

Case3 都会の求める何かと農村の温めてきたものが一致する幸せ
川渡温泉・宿みやま

板垣幸寿氏

Case4 地域のストーリーは重要な観光資源
鶴雅グループ代表

大西雅之氏

Case5 地域活性は町のこだわりから一小布施町と神山町の実例
法政大学大学院教授

中嶋聞多氏

Case6 「食と農業」で地域の発展を—「フードバレーとかち」への挑戦
帯広市長

米沢則寿氏

Case7 農業をシステムとして捉える
慶應大大学院 SDM 研究科

前野隆司教授
修了生 4 名

Case8 これからの日本の農業を支える側の役割
農林中央金庫代表理事理事長

河野良雄氏



成熟社会を迎えた今、農業は「成長戦略」に位置づけられ、地域活性はどの自治体でも急務となっている。しかし、真に目指すべき施策とは、幸せを感じることでできる、農村と都市の共生・交流である……。

農業・農村で幸せになろうよ 2014年3月1日発売
 編著者：林美香子
 書店販売価格：1,500円（本体）+税 (四六判並製・192頁)
 発行元：安曇出版 ISBN978-4-89610-812-5

『農業・農村で幸せになろうよ』 内容紹介

これからの農業・農村・地域活性はどうあるべきか——農村と都市の共生＝農都共生を提唱する林美香子氏と、農業・地域づくりのフロントランナーたちとの対談集。農村資源の有効活用によるビジネスモデル、都市農業の多目的な役割、観光より交流を軸とした農村と都市の関係、地域活性には住民のこだわりが欠かせない、地域住民で農業を支える経営手法＝CSA、など多彩な視点から、どうすれば持続可能で皆が幸せを感じることでできる社会ができるかを語り合う。

対談者：①大手企業とのタイアップなどを通じて限界集落を活性化させた、NPO「えがおつなげて」曾根原久司氏＝平成26年日本農業賞「食の架け橋の部」大賞受賞、②東京の農家でいち早く直売や体験農園を手掛けた白石好孝氏、③グリーンツーリズム大会や鳴子の米プロジェクトの世話人・板垣幸寿氏、④地域のストーリーを活かしたホテルづくりで急成長の鶴雅グループ代表・大西雅之氏、⑤小布施の町づくりに長年関与、地域ブランディング研究の第一人者・中嶋聞多氏、⑥フードバレーとかちで地域の活性を目指す米沢則寿帯広市長、⑦農業をシステムで捉える・慶應大大学院SDM研究科前野隆司教授と修了生4名、⑧農林中央金庫代表理事理事長・河野良雄氏。